

山は崩れ、道は消えた



震災の経験と山の暮らしを伝える「やまごし復興交流館おらたる」が開館（2階展示スペース・証言の森）

追悼、感謝、そして祈り。
10・23
中越大震災
から9年



大きく鳴り響く「希望の鐘」の音にさらなる復興を誓いました（山古志復興イベント／支所前）



復興の灯りの中で地震発生の時刻に合わせて黙とう（復興のつどい／アオーレ長岡）



メッセージキャンドルで感謝の想いを発信（ソングオブジアース／川口運動公園）



復興に欠かせない地域力を語りました（10月14日・復興祈念フォーラム／アオーレ長岡）

知ってる!? **ながおかモ** 

vol.03 食品の異物検査機／株式会社システムスクエア

■食品の安全を守る、優れた見張り役

今回紹介するのは食品工場で使われている異物検査機。磁界を使ったセンサーで金属片を見つける金属検出機と、骨、石、ガラスなど金属以外の異物も見つけられるX線検査機があります。同社はX線検査機の最新技術を開発したばかりです。



創業は平成元年。金属検出機の販売を始めたのは平成11年です。当初は年に数台売れるかという状態でしたが、次第に優れた技術が認められ販売数は増加。改良を繰り返し現在の主力製品に成長しました。タッチ

パネル表示で使いやすくするなど国内で初めて操作性を重視した結果、大手企業に次いで2位のシェアを誇ります。X線検査機の販売は平成16年から。金属検出機に比べて導入コスト・維持費が高く、大きいという3つの難点。また、外気を入れて発生した熱を外に出す構造は、ほこりや湿気で不具合を起こす問題がありました。同社はこれを解決した画期的X線を開発、トップを目指します。「大手が解決していない問題を技術で解決し製品に盛り込む。そこが会社の生命線」と語るデザイングループ長の斉藤寿満さん。他社にないデザインもウリです。「技術者の視点は機能が中心、使う人に近いのはデザイナーの視点。そのバランスをうまくとるように心がけています。異物検査機は裏方ですが、毎日食べているものは必ず通っています。こんな技術が活き、安全が保たれていることに興味を持っていただければと思います」。

※長岡のものづくり企業の優れた製品・技術を連載で紹介します

■発行：長岡市 平成25年11月1日発行
〒940-8501新潟県長岡市大手通1-4-10 ☎0258・35・1122(代)
「ながおか市政だより」は市役所総合窓口情報ラウンジ(アオーレ長岡東棟1階)、西・東サービスセンター、各支所で発行日から閲覧できます。
編集：広報課 ☎0258・39・2202/FAX0258・39・2272

■人口と世帯（10月1日現在） ※（ ）内は前月比
人口/281,286人(-93) 世帯数/103,689世帯(+14)
男/137,221人(-44) 女/144,065人(-49)

<http://www.city.nagaoka.niigata.jp>

 植物油インキを使用しています